

芦屋市立幼稚園の設置及び管理に関する条例新旧対照表

(下線部分は、改正部分)

改正案		現 行	
<p>(補則)</p> <p>第4条 この条例に定めるもののほか、管理その他について必要な事項は、教育委員会が別に定める。</p> <p>別表 (第2条関係)</p>		<p>(委任)</p> <p>第4条 この条例に定めるもののほか、管理その他について必要な事項は、教育委員会が別に定める。</p> <p>別表</p>	
名称	位置	名称	位置
芦屋市立精道幼稚園	芦屋市川西町11番10号	芦屋市立精道幼稚園	芦屋市川西町11番10号
芦屋市立宮川幼稚園	芦屋市浜町1番20号	芦屋市立宮川幼稚園	芦屋市浜町1番20号
芦屋市立岩園幼稚園	芦屋市岩園町24番3号	芦屋市立岩園幼稚園	芦屋市岩園町24番3号
芦屋市立小槌幼稚園	芦屋市打出小槌町15番7号	芦屋市立小槌幼稚園	芦屋市打出小槌町15番7号
芦屋市立朝日ヶ丘幼稚園	芦屋市朝日ヶ丘町10番3号	芦屋市立朝日ヶ丘幼稚園	芦屋市朝日ヶ丘町10番3号
芦屋市立西山幼稚園	芦屋市西山町22番15号	芦屋市立西山幼稚園	芦屋市西山町22番15号
芦屋市立伊勢幼稚園	芦屋市伊勢町13番14号	芦屋市立伊勢幼稚園	芦屋市伊勢町13番14号
芦屋市立潮見幼稚園	芦屋市潮見町1番3号	芦屋市立潮見幼稚園	芦屋市潮見町1番3号
		芦屋市立浜風幼稚園	芦屋市浜風町1番2号

## 芦屋市立浜風幼稚園の廃園に係る教育委員会の結論

### 第1. 結論

教育委員は全員一致で、浜風幼稚園の廃園が妥当であるとの結論に達しました。

### 第2. 理由

以下で述べる意見は、教育長を除く4人の教育委員の意見を教育委員会事務局の関与無く取りまとめ、その後に教育長の同意を得たものであります。

#### 1. はじめに

教育委員は従前の学校教育審議会の議論の経過について逐一報告を受けてきました。4月11日には地域の方々の直接のご意見を聞きました。なお、教育委員全員、審議会の議事録や資料の全部に目を通しました。そして教育委員同士による協議を何度も重ねてきました。その中で、地域、保護者の方々の浜風幼稚園に対する愛着を痛いほどに感じました。しかし、教育委員会としては、当事者の思いを大切にしながらも、他方で大きな視点で考えていく必要があります。

教育委員は、4つの大きな視点、すなわち、①社会環境の変化への対応、②平等、公平、資源の最大限の有効活用、③地域の子どもたち全体にとって何が最大、最善の利益になるか、④まちづくりの視点、以上の4つの大きな視点で考えました。

#### 2. 社会環境の変化

少子高齢化、そして共働き世帯の増加の流れは今後さらに加速していきます。社会環境の変化に迅速に対応していかず、保守的な姿勢に終始すると大きな損失を生じると思います。変化を恐れるあまり、現状に固執して手遅れになってしまわぬように、その時々でベストの選択を模索し続ける事が必要ではないでしょうか。社会は生き物であり、常に変わり続けるものであるがゆえ、教育もその本質

は変わらないにしても、姿、形においては常に変化していくことが求められると思います。

### 3. 廃園の是非

教育委員としては、認定こども園の問題をいったん判断材料から外したとしても、浜風幼稚園は廃園が妥当であると考えます。

すなわち、芦屋市では単一学級が継続する見込みになった場合は廃園を検討するという基準を従来から持ち続けてきました。それは少なくとも都市部においては合理的な基準として他の自治体にも広く採用されているものであり、スタンダードであります。就学前の教育においては、その目標の中に、集団の生活の体験や、互いにかかわり合ったり協同するなどの力を育てることがあり、そのためには子どもの一定数以上の数が望ましいと思われれます。浜風幼稚園は、関係者の懸命の努力により、少人数ではありながら、高い評価を受けてきましたが、それを一般化してはいけないと考えます。

浜風の園児減少の傾向はこれからも続くものと思われれます。たとえば、一時的に4歳児、5歳児のクラスのいずれかが2クラスになったとしても、それはやはり一時的なものに過ぎず、長期的には双方ともに1クラスになっていく事が予測されています。もちろん、予測は外れることもあります。この長期の予測を否定する説得力のある根拠は現状ではありません。そもそも、4歳児、5歳児の学年のいずれかが単学級であること自体も望ましくありません。

他方で、浜風地域には、近接して潮見幼稚園、宮川幼稚園があります。浜風地域からはそのいずれかの幼稚園まで徒歩最大16分程度です。大人の足での話ですが、自転車での送り迎えを行えばもっとも遠い距離にある人であっても、問題が大きいとは思えません。この地域は山手と違って、高低差がほとんどない地域です。また、JR芦屋駅近辺では最寄りの幼稚園から遥かに遠い地域があることも忘れてはなりません。

若干、距離が遠くなるというデメリットと比較しても、単一学級

という大きなデメリットを克服できる点は大きいと考えます。なお、教育委員会は、近隣の公立幼稚園に通わせたい保護者に対しては、自転車による送り迎え等、通園が容易になるように配慮する所存です。

以上より、廃園が妥当という結論に至りました。

#### 4. 教育施設の活用のあり方について

浜風幼稚園は3,000平米という広大な敷地を持ち、園児一人当たりの面積は50平米を超えます。これは園児にとっては極めて豊かな環境と言えますが、他の幼稚園や保育園と比べると、それは大変な不平等、不公平ということになります。浜風幼稚園は教育施設として有効活用されているとは到底言い難いのが現状です。

芦屋市という狭い市域にあって、教育施設は、地域の最大多数の子どもたちにとって、最大限有効に活用されなければなりません。浜風幼稚園の良い環境はできるだけ多くの子どもたちに提供する必要があります。

浜風幼稚園の施設は教育施設として活用される予定です。この事は、廃園決定の合理性をさらに補強するものであります。

#### 5. 廃園後の浜風幼稚園の活用について

本来は教育委員会の判断事項ではありませんが、本件では視野に入れることが必要だと考え、以下、論じます。

浜風幼稚園の施設は認定こども園として活用される予定です。幼保連携の必要性は昔から言われてきましたが、それを決定的に解決するのが認定こども園であると考えます。

認定こども園は、保護者の就労や家庭状況にかかわらず利用できるものであり、ワンストップサービスとして理想的なものです。そして、多様な子どもたちが一緒に過ごすことで、多様な価値観を相互に認め合うことにつながります。

今、求められている生きる力を育てる点からも、認定こども園のような環境が必要であると考えます。

また、認定こども園は、保護者の就労状況にかかわらず、同じ就学前教育を受けられるという点で公平性があるものです。

長期的には、認定こども園が定着すれば、保護者の就労状況にかかわらず同じ小学校に行ける機会が増えることとなり、その結果、いわゆる小1プロブレムなどに対して、幼小連携が取りやすくなります。

したがって、おそらくこれがこれからの就学前教育のスタンダードになると考えられます。

これは国の基本的な方針でもあります。

#### 6. まちづくりの観点から

浜風地域では、特に高層住宅を中心に若い世帯を招き入れ、子どもが溢れる町にすることで活性化を図る事が必要であると考えています。最近では、共働きの若い世帯が多くあり、育児をしながら、働き続けられる環境が求められています。ワンストップサービスである認定こども園はこの要請に真正面から応えるものであり、まちづくりの中核になるものと期待します。

#### 7. 公立か私立か

芦屋の公立幼稚園は非常に優れており、教育委員は、出来れば公立での認定こども園を希望してきました。しかし、財政面で約6倍もの違いが生じる以上、私立を選択せざるを得ないのではないかと予想しています。国は認定こども園を民間活力利用により発展させていく方針ではありますが、それに従わざるを得ないのが現状です。

#### 8. 私立を選択した場合の留意事項

芦屋の良い教育を出来る限り継承させて行くことが必要と考えます。新制度は私立であっても自治体の教育方針を反映させていく事が可能な制度設計となっており、市の望む教育方針を協定という形で拘束力を持たせて実施させるよう検討していただきたい。

市長部局においては、この方向性をできる限り探求していただきたい。特に幼小連携をスムーズにする方策をとることを民間事業者

に指導いただきたい。

また、地域の方々にとって、浜風幼稚園の学び舎は、思い出のたくさん詰まった宝物であります。認定こども園にするに際しては、保育施設の増設は必要だとは思いますが、その他の部分については、浜風幼稚園の現状施設を可能な限り維持することを求めます。また「浜風」の名称も、残していただくよう要望します。

認定こども園は、公立、私立を問わず、応能負担とする方針が示されていますが、その詳細はいまだ開示されていません。私立になった場合は、現行の幼稚園よりは公立との保護者負担額の差は縮小すると思われませんが、依然として差額が生じることも予想されることから、市長部局においては、保護者負担額の軽減について可能な限り検討していただきたい。

#### 9. 何故、今か

浜風幼稚園の廃園問題については、さらに時間をかけて保護者の方々を中心とする地域住民のご理解を得ていく事が本来は望ましいと思います。しかしながら、これまで述べてきた事から、廃園は合理的であると確信できるものであり、時間をかけてもこの判断が変わることはないと思います。

少人数である浜風幼稚園の現状が望ましいものと教育委員は考えておらず、事態の改善は早い方が良くと思います。

現在、芦屋市では待機児童の解消が大きな課題となっており、もはや時間の猶予はありません。特に浜風地域では保育需要が他地域と比べて高く、かつ、暫定的に開設されている浜風夢保育園が平成28年か29年には廃園となってしまう可能性が浮上しています。その受け皿の設置は喫緊の課題であります。

認定こども園は全国ではすでに1,000を越える実施となっており、特に兵庫県では実施率が全国第一位であり、近隣自治体においても次々と設置されているにもかかわらず、芦屋市ではまだゼロの状態であり、遅れているのが現状です。また、認定こども園は新

制度で活用しやすいものになり，さらに設置に拍車がかかると思われますが，得てして新制度では早く対応するのが国や県からの補助金，その他の制度面，民間事業者招致面で有利なのが一般です。

手をこまねいていると，浜風幼稚園の教育施設としての維持すら困難になるリスクも視野に入れなければなりません。

#### 10. その他留意事項

単学年になる平成27年度には，とりわけ注意深く子どもたちを見守り，特に年下の子どもとの交流は，たとえば夢保育園や潮見・宮川幼稚園などと密に行っていかなければならない，と考えています。

また，市長部局においては，長い年月の中で培われてきた，幼稚園・小学校を中心とした地域のコミュニティが途切れないように，廃園から認定こども園のオープンまでの空白の時間をできる限り短くするよう配慮いただきたい。

#### 11. 最後に

浜風幼稚園の保護者を中心とした地域の方々にとっては，愛着がある幼稚園の廃園は大変辛いことであると察します。

保護者の方々が廃園に反対されるのは，教育政策的な理由よりも，浜風幼稚園に対する思い，愛に基づくものであると感じます。それは最高の価値があることだと思います。なぜなら，その思い，愛こそが教育の大切な本質の一つだからです。これほどまでに愛されている芦屋の教育に携わることができて，教育委員はそれが誇りであり，このことは事務局を含めた教育委員会全員が同じであると感じます。

しかしながら，教育委員としては，保護者の方々の思いに反する結論を出さねばなりません。それは私達にとっても辛いことですが，大きな視点から判断しなければなりません。

保護者の皆様，地域の皆様には，今後，浜風地域の幼児教育及び保育施設においては，公立幼稚園（距離の近いところでは潮見・宮

川) , 私立幼稚園, 保育所, 保育園に加えて, 認定こども園というように選択の幅が広がるのだとお考えいただければと思います。

「廃園」というのはイメージが悪い言葉ですが, 少なくとも教育委員は本件を前向きなものと考えています。



## 市立幼稚園の園児数等の推移

（5月1日時点）

年度	市立幼稚園（全園）					浜風幼稚園（再掲）			
	園児数	学級数	定員	4・5歳児人口	園児数／人口	園児数	学級数	定員	4・5歳児人口 ※旧園区
昭和56年度	1,885	52	2,760	2,421	77.9%	193	5	280	216
57年度	1,862	54	2,760	2,365	78.7%	222	6	280	255
58年度	1,834	54	2,760	2,395	76.6%	266	7	280	305
59年度	1,806	53	2,760	2,413	74.8%	268	7	280	347
60年度	1,739	53	2,760	2,340	74.3%	223	6	280	332
61年度	1,699	52	2,760	2,291	74.2%	207	6	280	301
62年度	1,681	52	2,760	2,286	73.5%	213	6	280	251
63年度	1,650	53	2,760	2,256	73.1%	215	6	280	263
平成元年度	1,497	49	2,760	2,086	71.8%	224	7	280	277
2年度	1,362	49	2,760	1,965	69.3%	199	7	280	247
3年度	1,278	48	2,760	1,898	67.3%	183	6	280	239
4年度	1,129	44	2,760	1,757	64.3%	181	6	280	239
5年度	1,002	42	2,760	1,617	62.0%	153	6	280	220
6年度	944	40	2,760	1,541	61.3%	146	5	280	216
7年度	713	35	2,760	1,296	55.0%	112	5	280	161
8年度	726	32	2,760	1,333	54.5%	104	5	280	168
9年度	699	31	2,760	1,300	53.8%	104	4	280	155
10年度	704	32	2,760	1,290	54.6%	83	4	280	123
11年度	728	32	2,560	1,351	53.9%	77	4	280	126
12年度	682	30	2,560	1,327	51.4%	76	4	280	118
13年度	716	35	2,240	1,367	52.4%	82	4	245	124
14年度	778	35	2,240	1,484	52.4%	91	4	245	132
15年度	876	36	2,240	1,612	54.3%	81	4	245	114
16年度	888	37	2,240	1,660	53.5%	69	3	245	105
17年度	912	38	2,240	1,698	53.7%	72	3	245	100
18年度	943	39	2,240	1,716	55.0%	75	3	245	98
19年度	889	37	2,240	1,697	52.4%	72	3	245	103
20年度	898	38	2,240	1,744	51.5%	78	4	245	111
21年度	869	37	2,240	1,720	50.5%	64	2	245	107
22年度	857	35	2,240	1,699	50.4%	68	3	245	113
23年度	819	35	2,240	1,721	47.6%	60	3	245	98
24年度	847	36	2,240	1,806	46.9%	55	3	245	112
25年度	812	34	1,610	1,825	44.5%	55	2	175	116
26年度	724	32	1,610	1,722	42.0%	57	3	175	101

※浜風幼稚園旧園区：高浜町・浜風町・新浜町

※定員改正の経緯

平成11年度：山手幼稚園廃園に伴う改正

平成13年度：園区制廃止に伴う改正

平成25年度：預かり保育全園実施に伴う改正（専用保育室等整備）

# 市立幼稚園園児数等の推移

